

16回 APSTJ 製剤技術伝承実習講習会

～ 難溶性薬物の製剤設計 ～

1. 会 期 2018年9月20日(木)～21日(金)
2. 会 場 大川原化工機株式会社 粉体技術研究所(静岡県富士宮市)
静岡県立大学薬学部 創剤工学講座(静岡県駿河区谷田)
3. 主 催 日本薬剤学会製剤技術伝承実習実行委員会

製剤技術伝承実習講習会へのご案内

－ 難溶性薬物の固体分散体の製造及び物性評価法を体得しよう －

本講習会は、専門家による実技指導を通して奥深い製剤技術のノウハウを伝承することを目的とするもので、実習により主要な技術を実際に体験し、実験結果の発表を通じてさらに理解を深めて頂くものです。

今回は3回目になりますが、各社で大きな課題である『難溶性薬物の製剤設計』をテーマに、製剤設計の基礎から最新の製造技術を取り上げ、実際に汎用されている水溶性高分子を用いていくつかの方法で薬物の固体分散体を製造し、その物性を評価して機能と課題を理解する講習会を企画しました。すなわち、湿式粉碎によるナノ粒子化、スプレードライ、熱溶解などの手法による固体分散体の調製技術の習得と、製造した製剤の固体物性の評価法の習得など内容の濃い実習になっています。

製剤技術伝承実習実行委員長 山本 浩充

プログラム

※プログラムは予告なく変更されることがあります。

- 基調講演:「難溶性薬物の製剤設計」 講師 岡田 弘晃 (岡田 DDS 研究所)
湿式粉碎、固体分散体、自己乳化型製剤、複合体形成などによる溶解性改善、すなわち消化管吸収性の向上の方法について、製造法、評価法およびそれぞれの長所・短所などを概説します。
- 実習 A:「湿式粉碎によるナノ結晶の製造」 講師 尾関 哲也 (名古屋市立大学)
一本木麻衣 (アシザワ・ファインテック)
結晶の微細化に伴う比表面積増大効果による溶解性改善手法として、湿式ビーズミル装置を用いたブレイクダウン法によるナノクリスタルの調製を行います。
- 実習 B:「噴霧乾燥による固体分散体の製造」 講師 山本 浩充 (愛知学院大学)
岸 潤一郎 (BASF ジャパン)
溶解性改善のために最も汎用されている方法で、有機溶剤に溶解して噴霧乾燥し、水溶性高分子と薬物の固体分散体を調製します。
- 実習 C:「熱溶解による固体分散体の製造」 講師 仁平 潤 (エポニック ジャパン)
" 小坂 耕平 (サーモフィッシャー
サイエンティフィック)
最近盛んに利用されてきた方法で、二軸エクストルーダーを用いて熱溶解固体分散体を製造します。
- 実習 D:「固体分散体の物性評価」 講師 岩尾 康範 (静岡県立大学)
" 木村晋一郎 (静岡県立大学)
固体分散体の固体物性の測定法について概説するとともに、実際に薬物溶出試験、粉末 X 線回折、示差走査熱量測定、FT-IR による分析を実施し、その意義について議論します。
- 製剤機械設備見学「噴霧乾燥機」 講師 根本 源太郎 (大川原化工機)
*実際に使用する機器、詳細なプログラムは本学会ウェブサイト www.apstj.jp をご参照下さい。

参加区分と参加費 (テキスト代、宿泊費、交流会費、昼食費、駅から会場までの交通費を含む)

- | | |
|-------------------|----------|
| 【A】本学会会員・賛助会員企業社員 | ¥75,000 |
| 【B】本学会非会員 | ¥100,000 |